

2021 年 3 月

2021 年 4 月 20 日発行

# NPO 法人 わっか 月次報告書



# 28



だれもが、まるごと受けとめられる社会をつくる

わっかは、だれもが、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、

子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、

さらには、地域社会においても、

その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り

仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わっか」は、2014年3月から活動をおこなっています。

活動当初は、月に1回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。

遊び場に来てくださる方の声に応えたくて2015年7月から、古民家の開放をはじめました。

毎週月曜日の放課後、日曜日は月に1、2回開けることから始めた古民家開放は

わっかを通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。



# 第二十八号

## 目次

放課後児童クラブ さかっこクラブ	柳生のび	4
若者を取り巻く環境について 第一回	佐藤真紀	5
お弁当・おかずづくりを通じて	あすか	7
<b>事業報告</b>		
月ようわっか		8
平日わっか		9
日ようわっか		10
3月にいただいたご寄付		11
編集後記		12



原稿待ち  
放課後児童クラブ  
さかっこクラブ  
柳生  
のび

この連載を始めるにあたって、第一回目の今回は若者たち、子どもたちがおかれた環境の変化を見ていきたいと思えます。そのまえに「子ども」「若者」とは、奥が深く、とても浅学の私では語り切れないし、心理学的立場で見ると、教育学の立場で見ると、社会学の立場なのか、それとも私が関わる福祉の立場で見ると、大きく異なっているものです。さらに福祉の中でも子ども家庭福祉と言われながら、その中でもさらに少年非行、社会的養護か、貧困研究などの分野で視点異なるのが実情です。この一年を通して、できる限り平準化した話を展開させていこうと思いますが、あくまで実践者としての私の目を通して見ているものだとご了承願います。

さて「子ども」「若者」とは、いかなる存在なのでしょう。その表記のしかただけを取り上げても「子供」「子ども」「こども」と議論的になることがあります。また、呼び方に関しては、古くは「みどりご(嬰兒)」「歳くらいまでの子」「餓鬼(ガキ)」「わらべ」「こわっぱ」などと言われていたこともありました。また、現代でも「赤ちゃん」「児童」「こども」など、その存在そのものを指し示す言葉は無数にありますし、俗語や方言を含むとより多くのものがあるでしょう。

そうした子どもですが、0歳児は乳児と言われたり1-6歳は幼児と言われたりと年齢など、また各法律によっても「子どもは何歳から何歳までか」ということは変わってきます。そして、法律だけでなく、関係によっても子どもの定義は異なります。たとえば、成人をしたとしても、親から見たらずっと「子ども」というポジションであるように。

そうした多義的な意味合いを含む「子ども」「若者」という言葉ですが、関わっていると、しばしば「子どもが少なくなったね」と聞くことがあります。または「最近の小学校はクラスが少なくて」ということも聞かれることがあります。果たして、子どもはどこへいったのでしょうか(当たり前だが、大多数は成長して大人になっています)。

2019年の国民生活基礎調査を紐解くと、1986年今から35年前の「児童のいる世帯」は46.3%です。それが徐々に減少し、2019年には21.6%まで減少しています。つまり、子どもがいる世帯は35年前と比較して半数以下へと減っていますが、単にこれを子どもが減っているというひとつの現象に矮小化してよいものでしょうか。

この40年間には、家庭構造、就業構造の大きな変化もありました。男女共同参画白書令和2年版から引くと「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」は1980年の1114万世帯から2019年には582万世帯へと減少し、「雇用者の共働き世帯」は1980年の614万世帯から、2019年の1245万世帯と倍増し、1996年でそれぞれの値が逆転しています。直近でも人材仲介企業のランサーズが2021年3月31日に公表した資料では、自由業者などの国内のフリーランス人口が約1670万人になり、この一年で57%増加したとのこと。背景には、失業や雇用不安等も指摘されますが「雇用される働き方」からの個人で立脚していく時代への回帰かもしれません。他方で、そうした「自由」や「選択肢」を選ぶことができない人も多くいることは事実であり、また誰もがフリーランスで生活できるわけではありません。資格や実務上のスキルだけでなく、営業や経理などの仕事も一人もしくは少数のチームで行うことになるのですから。しかしながら、週60時間以上働く雇用者は、男性が9.8%、女性が2.3%(2019年度男女平等参画白書令和2年度版)と、男性に負担のしかかっていますし、家庭内の家事や育児は女性に負担が重くのしかかっています。

そうした中で「家事負担のアウトソーシング化」として、「妻が大変ならば」「お金で解決できるものは」とベビーシッターや掃除を外部業者に委託すればよいのではないかとこの言論も散見されるようになります。

そして、東京都などの一部自治体では、ベビーシッター等の利用への助成金が家庭に支払われるようになりました。ただし、これらは「持てる者」「持てる自治体」での話であり、多くは安心して頼む先もなく、また助成金ありません。また、そうした仕事に従事する人は、十分に生活ができるだけの収入があるのか、近接的な解決だけでなく、遠位的な構造へのアプローチは必要なのかといった疑義があることも記しておきたいです。

このように今日、子どもが生活基盤としてきた「家庭」は著しく変化をしてきました。1970年代の休日にはデパートへと出かける生活様式から、90年代のコンビニの勃興と全盛期、そして2010年代からの「口の普及など」「ものを買う」といった行動ひとつとっても大きな変化です。そうした実相を捉えつつ、どう「子ども」「若者」を見ていくかは、ノスタルジックな感傷に浸っていても見えてきません。ですから、子どもや若者だけを取り上げても、本質は見えてこず、周辺をとりまく社会の変化に目を向けなければなりません。特に、子どもの声は聞きにくく、また法的権能も制限がされており、自分自身ではどうにもできない事象に取り囲まれているのですから。の歳になったら小学校に行くなんてことも「子どもが自分自身で選んでいる」ことのほうが少ないのではないのでしょうか。

様々な議論の中で、かつてはライフサイクル／家庭周期論(森岡清美 1973)と言って、人の一生は婚前期↓新婚期↓育児期↓教育期↓排出期↓向老期↓退隠期と、みんなが同じようなパターンを前提に語られてきた時期もありました。ですが、今は結婚するかどうかは、その人の選択肢ですし、法律上の家族を形成するかもさまざまです。ですが、就業形態もライフサイクルが提唱された1970年代とは異なりますし、ライフコース論というものも出てきましたが、そうした理論はまだ模索されている最中です。

個の家庭から、大きなデータの社会まで、その流れを見ていくと「固定」化されたと思わされていた子どもや若者、そして家庭も「流動化」し常に同じではないという視点を持つことがひとつのポイントなのかもしれません。流動化ということは、すなわち画一的なイメージで語るものがしづらくなり、同時に虚像にせよある一定のイメージが共有されていた「子ども」「若者」像がなくなることであり、周辺からは見えづらくなるということでもあるのかもしれませんが。だからこそ、変化のしにくい従来のイメージにとらわれるのではなく、定量データと定性データ、そして子ども・若者たちの語りから紐解かなくてはならないのではないのでしょうか。

今回は紙幅の都合上、さわりの部分のみになってしまいましたが、残り1回回は、そうした社会背景の変化を捉えながら、かつ「子どもの権利」「人権」「社会正義」といったことを主軸にして、それぞれのテーマをもとに紐解いていきたいと思っています。さしあたり、前半のテーマを示しておこうと思います。5月は「制服」、6月「性的少数者」、7月「進路」、8月「夏休み」、9月「親の就労」、10月「居場所」で行こうと思います。ですが、前後することや時流によっては変更になる場合もあります。どうぞ、よろしくお願いします。

## さとうまき

精神保健福祉士・社会福祉士。岐阜県出身、東京都在住、米原にとときどき。2010年に岐阜県において学習支援を立ち上げ、各地でのネットワーク形成に取り組む。NPO 法人仕事工房ポポロ理事などを兼務し、東京でも子どもの貧困対策等の活動をしている。Twitter 19hz



先日、ひな祭りだったので  
お弁当ちらし寿司にしてみたよ。

いつもと違う時間に配達したら  
全然玄関にでてこない、おばあちゃん。  
「こんな時間にふだん誰も来ないから」  
「聞き間違えたと思った」  
んだらう。

そっか、これからはいつも通りの  
時間に伺おう。  
(だいのすけのお弁当)



娘たちが学校休みだから  
お弁当をつくっています。  
おばあちゃんに「娘と同じ弁当です」と  
伝えると、  
「若返るわー」と  
嬉しそうにしてくれていました。

(だいのすけのお弁当)



わっかとあすの木 @wacca\_asunoki (Instagram)

いままでのお弁当は、わっかホームページの Instagram で見てね。

毎週 月よう日 15:30 ~ 20:00

子ども 54 名 ( 28 名 ) おとな 11 名 ( 2 名 )

## 月ようわっか

( ) 内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

毎週月よう日の放課後に必ずひられる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

1日 子ども 16 名 ( 10 名 ) 大人 2 名 ( 1 名 )

メニュー：ちらし寿司

8日 子ども 13 名 ( 7 名 ) 大人 3 名 ( 0 名 )

メニュー：ごはん、根菜の味噌汁、キャベツ焼き

15日 子ども 16 名 ( 6 名 ) 大人 3 名 ( 1 名 )

☆卒業おめでとうメニュー：牛丼もしくは豚丼、白菜ときのこの味噌汁

22日

キャラバンのためお休み

29日 子ども 9 名 ( 5 名 ) 大人 3 名 ( 0 名 )

メニュー：たまご丼、豆腐とわかめと味噌汁





毎週 火～木曜日 13:00 ～ 17:00

金曜日 13:00 ～ 20:00

子ども 53 名 おとな 17 名

## 平日わっか

毎週火～金요일に開いている場です。参加費無料・申込不要。月요일と同じように、カリキュラムやプログラムは一切なしで、ただ開いている場です。そんな場所に集う人たちと、ゆったりとした時間を過ごしています。



春休みになりました。

「うわー久しぶり」と入ってくる女の子。「なんなん？ここ」と、その子に連れられて初めてきたっぽい子。

「ここは、好きにしている場所なんやで」と言えば「なんなん？それ」と返事をする。

ふだんは、あまりくる事のない子どもたちが、春休みになって、来てくれるようになりました。

ゲームしたり、外で大工道具で交錯したり、建物の周りを自転車で爆走したり、屋根に登ったり。

春休み、わざわざ、ここに友達と来てくれて、遊ぶ。その時間を一緒にさせることが、とってもありがたいなっと思っています。

今度は、夏休みかな。また会えるのを楽しみにしていてもいいかなあ。

だいのすけ

ときどき 日曜日 10:00 ~ 15:00

子ども 19 名 おとな 9 名

# 日ようわっか

月に1回程度、お昼に古民家を開放しています。お休みの日なので、ここに、くるのは小学校高学年までの親子連れが中心です。親子で、きていた子が大きくなったら一人で「月ようわっか」にくるということもあります。



## 2021年3月に頂いたご寄付

物品でのご寄付 **5**名（団体）敬称略

- ・ 1日 ティッシュ（匿名）
- ・ 3日 書き損じハガキ（T）
- ・ 3日 おかし、マスク（S）
- ・ 20日 おかし（F）
- ・ 21日 野菜（U）



マンスリーサポーター **28**名

荒巻りか、石田智子、大溪麻紀子、後藤基志、佐藤笑代、佐藤真紀、佐藤桃子、柴原隼、鈴木愛子、津田千恵子、永峰美佳、西村、廣部奈緒美、藤澤彰祐、べっかむ、前田諭、マコトヤ、南出吉祥、三輪恵美、吉田尚子（敬称略）

都度ご寄付 **2**名

20,000円（匿名） 2,000円（匿名）

助成・補助団体、応援企業 **14**団体（2020年度）

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社、真如苑、いっぽまえクラブ  
社会福祉法人 米原市社会福祉協議会、公益財団法人 信頼資本財団、タノシニア合同会社  
一般社団法人 全国食支援活動協力会、公益財団法人 さわやか福祉財団、マコトヤ、紙eco  
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会、NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ  
（敬称略 2021.3.31 現在）

いろいろ



取材していただきました。

子ども食堂と、それを支える仕組みづくりについて、取材をしていただきました。その中で、日ようわっかに取材に来てくださり、子供や大人の声聞いていただきました。普段、聞く事のない声を聞くことができました。

<https://youtu.be/b0-3vFQriE8>



## 編集後記

新学期がはじまりました。

春休み少し前の、学校が早く終わる頃から

女の子2人が、学校終わりに

自転車であててくれるようになりました。

春休みに入ると、友達を連れて最大5人くらいで

来てくれました。毎日ではないけれど。

彼女たちが来るととっても場が明るくなります。

春休みの最後の日。

次、来てくれるのは夏休みかな、

学校始まると時間ないもんなあと

すこし寂しくなっていました。

新学期がはじまりました。

すると、平日も4時から5時半くらいまで

学校終わりに来てくれます。

春休み前から春休み中にすごした時間が

彼女たちにとってどういうものだったのか。

そんなことは、野暮になるので考えないですが

とにかく嬉しいのです。

(だいのすけ)

## ご寄付のおねがい。

わっかの目指す社会に共感していただいた方

子ども・若者の居場所になりうる活動

古民家をただ開ける、他にはない活動 を寄付にて支えていただけないでしょうか。

わっかの活動は、活動をする我々、ご寄付による支援による2つの車輪で活動は行われています。我々は、古民家を開け、子ども・若者と何でもない時間を古民家で過ごしています。そして、そこで出会った子どもたちと子ども・若者と個別の関わりをもっています。

現在、年間、約70万円の寄付をいただいています。

古民家を1年間開けるには、家賃、光熱水費、食材費、消耗品費に年間、約80万円を必要としています。現在、28名のマンスリーサポーター、みなさまのタイミングでいただく寄付（都度寄付）によって約70万円のご寄付をいただける予定です。ただ、いまの活動を継続すること、さらには古民家をあける時間を少しでも長くすること、個別の関わりを充実させていくために、残り10万円の寄付を必要としています。

これまでの、7年間の活動で、古民家を集ってくださる方がいます。集う時間以外でも、古民家の存在に安心でいるといった気持ちを届けていただいています。また、しんどさを抱えている方への個別のサポートも行えています。

わっかの運営は、みなさんのご寄付で支えられています。ぜひ、

月1000円から応援できる「わっかマンスリーサポーター」

ご自身でご金額やタイミングを選んでいただける「都度寄付でのサポーター」

にて活動を支えてください。

マンスリーサポーター登録ページ

<https://www.congrant.com/project/wacca/724>



マンスリーサポーター登録ページ

<https://www.congrant.com/project/wacca/1589>



団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059（代表）
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	<a href="https://npo-wacca.org">https://npo-wacca.org</a>
Facebook	 こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	 アカウント名 @NpoWacca
Youtube	 アカウント名 振角大祐

